

2 1 単位時間を通した取組（第3・4学年の実践例）

- (1) 単元・教材名
まとまりをとらえて読み、感想を話そう（教材名「言葉で遊ぼう」「こまを楽しむ」光村図書3年）
きょうみをもったところを発表しよう（教材名「大きな力を出す」「動いて、考えて、また動く」光村図書4年）
- (2) 目標（第4学年）
 - 双括型の特徴（文章の始まりと終わりの部分の両方で自分の考えを述べている）を生かして、教材文「動いて、考えて、また動く」を三つのまとまりで捉えることができる。（思考力、判断力、表現力等）
- (3) 実際

【視点1】 「対話的な学び」に重点を置いた国語科授業づくり	主な学習活動（第4学年）（3/8）	【視点2】 複式学級の特徴を生かした指導
<p>(2)-ア（考えの形成）</p>  <p>⑦段落と⑧段落のもつ役割の違いに気付かせるために、⑦段落と⑧段落が一つのまとまりか、それとも分かれるのか、Which型課題でどちらかを選択させる課題提示をした。選択した理由を明確にすることで、段落のもつ役割を考えることにつながるようにした。</p>	<p>1 前時を振り返り、単元のめあてを確認する。</p> <p>2 第2教材の学習計画表を確認し、単元のゴールの活動を捉える。 ○ 学習計画表で本時の学習を確認するとともに、単元の終末の活動やモデル文を捉えることで、「何を学ぶか」、見直しをもって学習に取り組ませる。</p> <p>3 本時の学習のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>長い説明文で、まとまりをとらえるにはどうすればよいのだろうか。</p> </div> <p>4 課題を捉える（Which型課題提示）。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>○A ① ②③④⑤⑥⑦ ⑧ ×B ① ②③④⑤⑥ ⑦⑧</p> </div> <p>5 学習の進め方を確認する。 ・ 本時の学習内容 ・ 本時の学習の進め方 ◎ ガイドには進行役をさせることで、間接指導時の学習がスムーズに進むようにする。</p> <p>6 CDの範読を聞きながら、段落ごとに大事な一文を見付けたり、段落のもつ役割で内容を仲間分けしたりする。 ・ 大事な一文に線を引く。 ・ 段落のもつ役割（「考え」「事実」「説明」）に仲間分けする。</p> <p>7 課題の解決を図る。（個人→全体） ・ 提示された二つの文章構成から正しいものを選び、理由を明確にしながらかける。 ◎ Which型で構成図を選ぶときには、線を引いた文や段落のもつ役割を理由に選ばせるようにする。</p> <p>※話し合い ◎ 話し合いの際には、自分の考えの理由を明確にするとともに、互いの考えの理由について、質問し合うようにすることで、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>8 双括型の構成になっていることを確かめ、その意図も捉える。</p> <p>9 学習のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>長い説明文でも大事な文を見付けたり、段落のもつ役割（「考え」「事実」「説明」）で仲間分けしたりすれば、まとまりをとらえやすい。</p> </div> <p>10 学習を振り返る。 ※振り返り（異学年交流） ○ 振り返りの視点に沿って、本時の学習を振り返ることで、話し合いを通して、変容した自分の考えを自覚化させる。次時で「中」の各段落について詳しく読み、段落同士のつながりを捉える活動を行うことを意識させる。 ・ 一人で → 全体（3年生へ）</p> <p>11 次時の学習の見直しをもつ。</p>	<p>(1)-イ（ガイド力・フォロワー力の育成）</p>  <p>学習の流れに沿って、ガイドが学習を進め、フォロワーもしっかり指示に従って学習に取り組めるようにする。必要に応じて「ガイドの説明書」を活用し、ガイド力・フォロワー力の向上を図った。</p>
<p>(2)-イ（考えの共有）</p>  <p>自分の考えをネームカードで示し、その理由を発表する。話し合いの中で出てきた重要な言葉をホワイトボードに書くことで、思考の跡を可視化し、互いの考えを共有できるようにした。</p>	<p>8 双括型の構成になっていることを確かめ、その意図も捉える。</p> <p>9 学習のまとめをする。</p>	<p>(1)-ア（思考をつなぐ話し合い）</p>  <p>C1：⑦段落は「終わり」に入ると思いますが。理由は、まとめる言葉「このように」が使われているからです。 C2：○○さんの考えとちがって、「終わり」は⑧段落だけだと思います。「こうした経験から」と筆者の考えをまとめて述べているからです。</p>
<p>(2)-ウ（考えの自覚化）</p> <p>視点に沿って振り返りをさせることで、話し合いを通して変容した自分の考えを自覚化できるようにした。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>C：⑦段落の「このように」は「終わり」ではなく「中」のまとまりで使われることもありました。⑦段落のもつ役割をくわしく調べてみたいと思いました。</p> </div> 	<p>10 学習を振り返る。 ※振り返り（異学年交流） ○ 振り返りの視点に沿って、本時の学習を振り返ることで、話し合いを通して、変容した自分の考えを自覚化させる。次時で「中」の各段落について詳しく読み、段落同士のつながりを捉える活動を行うことを意識させる。 ・ 一人で → 全体（3年生へ）</p>	<p>(2)-イ（振り返りの交流）</p>  <p>両学年の指導事項をそろえ、異学年同士と一緒に学習の振り返りを交流することで、多様な考えを共有することができた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>C：3年生では、「このように」の言葉は、「終わり」のまとまりで使われていましたが、4年生ではそうでないこともあると言っていたので、どういふことか知りたいと思いました。</p> </div>